

愛にポテンシャルエネルギーがあるなら

『一女の子のためのセックス』評

泉由良

一読して（りなさんに抱かれない）と瞬時痛烈に思った。（りなさんに犯されたい）だったかも知れない。犯されたいとは曝かれないということだ。

力学エネルギーの法則のことを繰り返し考えた。

愛情が、力学エネルギーの法則に酷く似ている。

愛情に位置エネルギーがあるのならば、と連想する（位置エネルギーとは質量×高さ×重力であって、ポテンシャルエネルギーである）。愛情にポテンシャルエネルギーがあるのなら、この詩集に出てくる女の子はセックスするときいつも相手に（愛情という）エネルギーを渡してしまうのではないだろうか。何故なら彼女の愛情の方が高い位置にあるから、位置エネが交換されてしまうのだ。

「お金で買われるのは気持ちがいい」という一文と「マンコ壊れたって言って帰ってきた」という表現に私は、（セックスしたことは淋しいですか、）と問い掛けたくなる。彼女はエネルギーを動かしたから。

いれて

こすって

いく

他の人間たちがしているように

してみたいのさ（「女の穴」）

他の人間たちのようにしてみて、淋しくはなかったですかと、尋ねても良いですか？ 私はね、淋しいんだよ。つぶやいた。

男って

射精した瞬間愛情の一部も

流れていくらしいね

だから

あなたの横顔は哀しそうなのか（「射精」）

これが男の運動エネルギーだとしたら、それは多くの場合、ゴムや外出しに移動する。だからつりあっていない。エネルギーは女へと入らない。セックスが（恋愛と愛情が）男女に全く均一の幸福を与えるかと云えばそれは難しいことだ（だがたぶん彼女はそれを《受け入れる》「詩」）

本当は、

あなたという夜はいつも完璧だった（中略）見えているものと見えないものすべてをのせたシーソーがつりあっている。（「swissôtel」）

私の瞳に映るあなたもそうだといいな（「ロマンチック・メモ」）

というように一定の均衡状態にあるなら愛情は優しさに等しい。でも均衡の為には、エネルギーは移動しなければならない。そしてエネルギーは常に移動するのが力学的法則だ。

充電されました、幸せ

男は、放電だよな。（「スマホのメモ帳」）

放電した分、男は得たものがあり、女の子は充電した分、失ったエネルギーがある。物理的に云って、何故性的暴力を受けたことを

本当に本当に幸せだったんだよ（「一番幸せだった時」）

と云えるのかといえ、そのときエネルギーの移動が何処にも無かったのではないか。

この詩集には女性と愛し合った話（「ふたりで」）が登場するが、りなさん女の子としようよ、私としよう私としてください、と、私は何度も云いたくなる。男なんかとより。女の子なら伝わらない射精をすることなくセックス出来るからさ、と。この想いは私からりなさんへ対する暴力だ。りなさんの愛情の位置エネルギーは私より高いかも知れず、私はきっとふたりで行為をしてもりなさんを淋しくさせてしまうのかも知れなかった。

わたしにとって

すべては暴力で

わたしは

すべての暴力を

受け入れる（「詩」）

と記してそれを巻頭とする詩集『女の子のためのセックス』を読んで私は、私が常に暴力的存在であることを思い起こし、そして何処にも暴力を振るいたくないことも思い起こした。そんなこと思わせなくなかったよ、とりなさんに感じさせることも、そんなこと思い出させてごめん、と感じるりなさんも、そう思ってくれたんだね、と云うりなさんも想像した。他人と、他人同士であることの、心を共有することの困難に悶える。

自由も愛情も孤独も、そもそも年中性器を使う存在に生まれたことが私にとっては最大の暴力だ。それでも詩集を読みながら、《月の光》や《いのる》や《微笑む》や《夜の散歩》という単語の端々で、《いけないことを／するのが／好き》で（この改行の優しさ！それが詩としての技巧だとしてもそれは優しさで）救われてしまう。詩で救われたり癒されたりすることなどくだらないと思っている自分を易々と超えるものがここにある。

どうすれば良いのか分からないのが世界で、どうすれば良いのか分からないから自由だ。

だから本当はなんと云えば良いのか分からないけれど、この詩集を読んだ時間を感謝する。

違う力学方程式を学ぶとしたら、愛情と詩を掛ける公式を、それを何らかのポテンシャルエネルギーとしたい。

ほぼ十年前に一度だけ見たときのちんすこうりなさんは、詩集系即売会で『青空オナニー』という詩集を売っています」と壇上で自己紹介をしていた（ひとりずつ壇上に上がって紹介が出来た）。「オナニー」と発音するとき少しはにかんでいるように見えた。

今、『女の子のためのセックス』が出来上がりました」と発音するとき、りなさんはまたあの微かなはにかみを含むのだろうか。それがどちらであっても「セックスをするための女の子」、可愛いね、などと、思った。恋に懲りるのかは未知だが、愛には懲りない方がきつとずっと可愛いだろうね。私にとってのりなさんはいつも、正直なところ「可愛いひと」だ。